

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 2 区分
【発行日】令和 5 年 11 月 14 日(2023.11.14)

【公開番号】特開 2023-112203(P2023-112203A)
【公開日】令和 5 年 8 月 10 日(2023.8.10)
【年通号数】公開公報(特許)2023-150
【出願番号】特願 2023-104306(P2023-104306)
【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02(2006.01)

10

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 0 6 A

A 6 3 F 7/02 3 0 1 C

【手続補正書】

【提出日】令和 5 年 11 月 6 日(2023.11.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

20

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技球が流下する遊技領域を備えた遊技盤と、
前記遊技盤が取り付けられる本体枠と、
前記遊技領域に向けて遊技球を発射する打球発射装置と、
前記打球発射装置によって発射された遊技球が前記遊技領域から回収された後、回収された遊技球を揚送するための揚送装置と、
前記揚送装置の近傍に配置される球磨き部材と、
遊技の進行を制御する主制御手段と、
を備え、
前記遊技領域を流下した遊技球を循環させることで遊技を行うようにした遊技機であって、
前記揚送装置は、遊技球を揚送するためのスクリー部を有しており、
前記揚送装置における前記スクリー部と前記球磨き部材とが対向する箇所において、
前記スクリー部によって揚送される遊技球が前記揚送装置に設けられた開口部を介して
前記球磨き部材と接触して球磨きが行われ、
前記開口部は遊技球が通過し得ない大きさとされ、
前記球磨き部材が未装着状態であっても前記主制御手段による制御が可能とされる
ことを特徴とする遊技機。

30

40

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 1】

本発明は、所定数量の遊技球を循環させて遊技を行わせる封入式の遊技機に関する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 2

50

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0002】

従来技術として、遊技球を循環使用する遊技機が知られている。（例えば特許文献1）

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0003

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0003】

【特許文献1】特開2012-187382号公報

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0004】

しかしながら、特許文献1に記載の遊技機には、改良の余地がある。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

そこで、本発明の課題は、従来の遊技機を改良した封入式の遊技機を提供することにある。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

本発明は、
遊技球が流下する遊技領域を備えた遊技盤と、
前記遊技盤が取り付けられる本体枠と、
前記遊技領域に向けて遊技球を発射する打球発射装置と、
前記打球発射装置によって発射された遊技球が前記遊技領域から回収された後、回収された遊技球を揚送するための揚送装置と、
前記揚送装置の近傍に配置される球磨き部材と、
遊技の進行を制御する主制御手段と、
を備え、
前記遊技領域を流下した遊技球を循環させることで遊技を行うようにした遊技機であって、
前記揚送装置は、遊技球を揚送するためのスクリー部を有しており、
前記揚送装置における前記スクリー部と前記球磨き部材とが対向する箇所において、
前記スクリー部によって揚送される遊技球が前記揚送装置に設けられた開口部を介して
前記球磨き部材と接触して球磨きが行われ、
前記開口部は遊技球が通過し得ない大きさとされ、
前記球磨き部材が未装着状態であっても前記主制御手段による制御が可能とされる
ことを特徴とする。

10

20

30

40

50

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明によれば、新たな態様の封入式の遊技機を提供することができる。

10

20

30

40

50